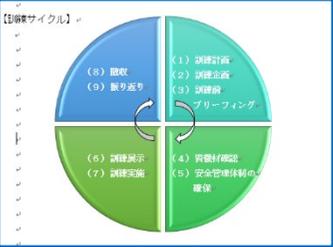
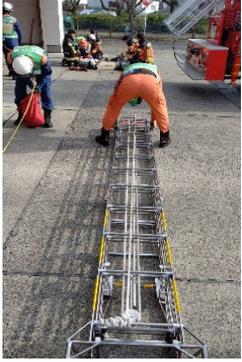
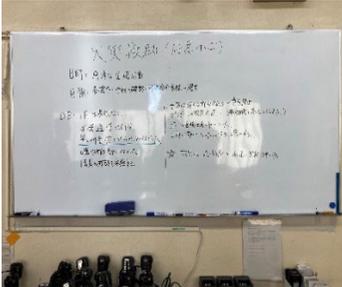


	映像（イメージ）	テロップ	ナレーション（青字はテロップ）
0		<p>訓練指導マニュアル</p>	<p>本動画では、「訓練効果を高めるための救助訓練指導マニュアル」を用いた効果的な訓練手法について動画と解説を合わせて説明します。 主に訓練を計画・企画し、指導者向けの救助訓練指導マニュアルですので、訓練時の参考として活用をお願いします。</p>
0-1		<p>訓練計画・企画</p>	<p>消火、救助、救急などの災害対応、また、予防業務、防災業務をはじめとする通常業務など多岐にわたる業務のなかで、訓練の時間を確保しなければなりません。そのため、まずは、消防本部、消防署の訓練年間計画を作成し、計画的に訓練を実施してください。計画的に実施する方法として、救助隊員が入れ替わる4月期などは、基本訓練から始め、チームワークが高まった後に、応用訓練、そして消防隊と連携した総合訓練など、段階的な訓練に留意してください。また、毎朝の始業前点検に資機材取扱訓練などを取り入れるなど、短い時間で点検と合わせて効率的に訓練を実施することも考慮しましょう。</p> <p>なお、国、都道府県が企画する大規模な訓練は警察、自衛隊等との連携を確認する貴重な機会であり、そのような訓練を積極的に活用し、関係機関との連携力を強化・促進してください。 また、訓練を企画するときは次のことに留意してください。 ア 当該訓練を企画した目的や意図、到達目標を明確にすること イ 隊員の意見も聴取、勘案しながら訓練内容を検討すること</p>
1	<p>救助隊の訓練の様子を流す。</p>	<p>マインド（心構え） 雰囲気づくり</p>	<p>訓練指導を実施する上で、指導者は次のことに努めてください。 ア 指導者は過度な上下関係ではなく、明瞭な指示・指揮を行うこと。 イ 隊員が遠慮なく意見が申ができる環境づくりに努めること。 ウ 訓練を企画した目的や意図、到達目標を明確に伝えること。 エ 普段からのコミュニケーション、雰囲気づくり、そして、教える側、教わる側の心構えが必要であることを認識しておくこと。 オ 場合によっては、指導や訓練企画を隊員に行わせることも大切であり、部下や隊員を育てる貴重な時間であることを認識しておくこと。</p>
2		<p>ブリーフィング</p>	<p>訓練前ブリーフィングは、訓練方針や説明、安全管理等に関する情報交換と確認を行い、隊の共通認識を形成するために、指導者が中心となって設定する場です。これにより情報交換が促進されるだけでなく、円滑な訓練進行にも繋がります。隊員がブリーフィングに参加しやすい雰囲気作りを意識しつつ、次のポイントを踏まえてブリーフィングを行いましょう。なお、今回のモデル動画では、救助隊長が指導者です。 ア ブリーフィングの場を設定する。 イ 十分な時間を確保する。 ウ 訓練の到達目標及び訓練の目的・意図を共有する。 エ 予め判明している制約（場所、時間、設定限界等）を共有し、それらを理解した上で到達目標の達成を目指す認識を形成する。 オ 基本にない応用的な行動や特別な操作をする場合は、丁寧に説明する。 カ 隊員の技能・技量、知識を考慮して説明する。 キ 危険予知、安全管理体制の確保についての共通認識を共有する。特に、訓練に臨む前には、各消防本部で定められている活動マニュアル等、また資機材の名称等を確認するとともに、活動における共通認識（目標、資機材名称、救助方法等）を共有することも忘れない。 ク ブリーフィング中に隊員からの質問や情報提供を積極的に求める。</p>
2-1			

3		<p>資機材確認 安全管理体制の確保</p>	<p>【資機材確認】 資機材の諸元性能の知識の欠如及び点検不足による事故は、絶対に避けなければなりません。次の事項を実践して、適正な使用方法を熟知し、不具合の発見や違和感の感知に努めてください。 ア 訓練で使用する資機材は日常点検により習慣的に点検すること。 イ 訓練直前の最新時点での状態を点検すること。</p> <p>【安全管理体制の確保】 安全管理の主体は、隊員本人であることを基本とし、安全管理の責務は、指導者にあることを認識してください。訓練を実施するうえでの危険箇所、危険行為等の注意点を事前に抽出しておく必要があります。また、抽出した注意点を具体的な形で周知徹底してください。（危険箇所のマーキングや注意表示、安全管理員の配置のほか、危険行為があった場合は、直ちに訓練を中断する等のルール決め） 安全管理員は、蛍光色のビブスの着用、ヘルメットカバーの装着等で明示したうえで、確実に配置してください。なお、安全管理員は、次の行動に留意し、活動してください。 ア 訓練中は、危険箇所の監視や隊員の危険行為の監視に集中し、訓練隊員の補助やサポートには入らない。ただし、危険行為の場合は躊躇せず必要な対応をとる。 イ 訓練終了後は、撤収作業に参加せず、撤収作業中の事故防止に徹する。</p>
4	<p>訓練の展示 (ポイントをおさえた展示)</p>	<p>訓練展示</p>	<p>ゴールセッティングした後のモデル提示は、学習意欲が高まり、理解度が向上することが明らかになっており、これを「視覚優位」といいます。つまり、訓練において、明確な目標設定後の訓練展示は、隊員の訓練意欲と理解度の向上に極めて有効であるため、指導者は積極的に「見せる」ように努めましょう。この際、自ら見せることの他にも、写真や映像を活用することも効果が高いため、さまざまなツールを用いて「訓練の見える化」を図ってください。 さらに、訓練を展示するにあたって、次のことにも留意してください。 ア 指導者は、訓練の到達目標として掲げた手技、技術、資機材活用の手順や内容について、分解し、あるいは区切り、ポイントとあわせて具体的に見せるようにする。 イ 必要に応じて、全体を通して一連の流れを見せるようにする。</p>
5		<p>訓練実施</p>	<p>指導者は、隊員が、説明・展示したポイントを理解し、目的、到達目標を理解した訓練が実施できているかを確認します。実施できていない又は誤った操作をしているなどについても確認してください。 ⇒訓練終了後の振り返りで活用するために、カメラ等に動画として録画しておくことも有効な方法である。 訓練中に、叱責や上手くできない理由を指摘することは、隊員の集中力の断絶やモチベーションの低下につながる可能性があり、そのことで注意力が散漫になり、訓練中の事故につながりかねないため、厳に慎む必要があります。できた理由、上手くできていない理由を分析し、振り返り時に共有するようにしましょう。 ア 訓練中に、自己確保ロープを設定しない、三連はしごの転倒防止措置をしない等の不安全行動や訓練用人形を落下させるなどの危険行為があった場合は、「まて!」「やめろ!」などの強い指示やホイッスルを吹くなどし、即座に訓練を止めることが重要である。 イ 安全に訓練を実施するため、中止基準について指導者が中心となって、隊員に必ず事前に説明しておき、訓練中にそのような行動が見られた場合は、毅然と対処する。 ブラインド訓練（ブラインド訓練とは、隊員に事前に訓練の進行やシナリオを与えず、想定のみを付与する訓練で、緊張感も高まり、隊員は、より現実に近い模擬体験をすることができるため、チームワークの向上も期待できる訓練方法の一つ）は、各隊員の知識、技能・技量、判断力等、全員が主体的で連携して動くことのできる能力が備わってきたタイミングで実施することが有効です。救助隊全体としての能力や練度の確認と検証、また、状況認識力や判断力、臨機応変さなどを試しながら現場対応力の向上を目的として実施するとよいでしょう。</p>

<p>6</p>		<p>資機材撤収 (出動態勢)</p>	<p>訓練終了後は、確実かつ迅速に撤収を行いましょう。使用した資機材は必ず点検し、放置することなく元の場所に戻し、出動態勢を速やかに整えます。 ⇒資機材の破損や不具合を発見した場合は、それ以上の使用を控え、速やかに修理等の必要な対応をとること。 訓練終了後は、疲労感等により注意力が散漫になり、資機材に指を挟むなどが発生する可能性があります。 ⇒撤収時に危険を察知した場合は、すぐに作業を中止させること。</p>
<p>7</p>	  	<p>振り返り</p>	<p>訓練の振り返りは、検討事項を洗い出し、修正をするための検証を実施することも大切ですが、次回の訓練で、よりよい活動ができるような振り返りを行いましょう。“さらに”効果的に活動するための改善策を考え、全員で共有することが重要です。具体的には以下の点を踏まえて振り返りを行います。</p> <p>ア 指導者は訓練中から振り返ること 隊員は訓練に集中しているために気付かないことや客観的に振り返ることが難しいことがあります。そのため、指導者は訓練中から隊員の行動をよく観察し続けながら、訓練に臨むように心がけてください。カメラ等で録画した動画を確認することも有効な手法です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訓練そのものが企画に基づき進んでいるか ・企画時に定めた「目的や意図」を理解できているか ・その上で到達目標を達成できそうか、訓練効果が現れているか ・「的確な判断」や「判断の遅れ」、「良い動き」や「改善すべき不自然な動き」などについて把握・記録しておくこと <p>イ 指導者自身がオープンな振り返りをする 指導者は、全隊員が客観的かつ感情的にならない振り返りを行いましょう。振り返りの流れを例示します。 最初に、全体的に評価できる点や能力の向上が見られた点を肯定的に伝えるなど、前向きな内容から始めます。 次に、指導者自身の過去の経験や自分が注意したり、改善すると全体の活動が良くなる点、あるいは今後の訓練や事例の勉強等で補っていく点などについて、指導者が素直かつ自身の失敗についても隠すことなくオープンに振り返ります。そうすることで、隊員も安心して振り返りに参加することができます。</p> <p>その後、隊員の振り返りに移る前に、指導者は、これから実施する振り返りが特定の隊員に偏ることや個人攻撃のようなことは避け、全体を均等にコントロールする態度で臨むことを示してください。例えば、「この振り返りは、全員が参加して、できたことや課題について公平かつ客観的に行うことが大事である。自分のパフォーマンスについて指摘されたとしても自己防衛的になる必要はなく、むしろそれは伸びしろであり、成長するチャンスであるから積極的かつ建設的に受け入れて、今後のパフォーマンスに活かす振り返りにしよう」といった趣旨を伝え、隊員同士が認め合ったり、指摘することを受け入れる雰囲気づくりに努めましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①全体的に評価できる点や能力の向上が見られた点を肯定的に伝える。 ②指導者自身が実体験（失敗談等を含む）を踏まえて、オープンに振り返り、隊員の心理的安全性を確保する。 ③振り返りが個人攻撃や特定の隊員に偏ることを避け、隊員同士が認め合い、指摘を受け入れる雰囲気づくりに努める。 <p>ウ 即座に改善すること 振り返り時に、即座に改善が必要な課題が明らかになった場合は、その場で訓練を繰り返すなど集中的に対応し、その都度丁寧に説明し、評価するようにしましょう。</p> <p>エ 指導者は、指導内容が適正だったかを振り返ること 指導者は、次の点に留意して指導内容を振り返ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・到達目標を明確に伝えることができていたか ・危険要因の共有等の安全管理体制に不備はなかったか ・到達目標の達成度合いを伝えることができたか ・隊員の良い点を認めさらに伸ばす方法を示し、課題点を指摘して今後の改善について考えさせることができたか <p>以上が、救助訓練指導マニュアルの流れです。このモデルと救助訓練指導マニュアルを参考に、より効果的な訓練指導を実施してください。</p>